

# 「いきいき同窓会」 会員減少の主な原因と対策

「いきいき同窓会」は、会員数の減少という深刻な課題に直面しており、特に昨年は30%減少しました。この課題に対して、会の存続のため「デジタル化」を軸とした抜本的な対策が進められています。

## 会員減少の主な原因

### 1. 会員の高齢化と新しい修了生の参加減少

- 市民大学校の初期の修了生で発足したため、会員の高齢化が進行。
- 新しい修了生の同窓会への参加が減少。

### 2. 旧態依然としたコミュニケーションと運営

- **情報伝達手段の課題:**
  - 紙媒体中心の会報や電話・郵送での連絡が主流。
  - 会報の発送作業の負担が大きい。
  - 会員名簿が紙ベースで更新に時間がかかるなど、アナログな手法への依存が運営側の負担を増大させる。
- **コミュニケーションの課題:**
  - 理事会からの情報発信が一方的。
  - 会員が運営プロセスに関与している感覚が薄い。
  - 会員との日常的な接点が不足している。

### 3. 活動の魅力不足と参加機会の限定

- **活動内容の課題:**
  - 年次行事や同好会の活動の停滞的な状態（参加者減少）。
  - 一部の活発なクラスや同好会を除き、同窓会活動の楽しさや参加する意義を感じにくい。
  - 特に同好会に所属していない会員や活動に参加できていない会員にとって魅力が薄い可能性。
  - 会員の興味を引く新しい分野の活動が不足している。
- **情報発信・参加形式の課題:**
  - 活動の様子や魅力が十分に「見える化」されていない。
  - 参加形式が画一的になりがち（新規参入が少ない）。

### 4. 会員のデジタルリテラシー不足

- 多くの会員がPCやスマートフォン操作に不慣れ。
- デジタル技術が普及する中で、学習機会やサポート体制が不足。
- 「難しい」「自分には無理」といった抵抗感や不安が存在。

### 5. 組織運営・理事会の課題

- **理事会の機能不全:**
  - 理事会が形骸化し、機能不全に陥っている。
  - 一部の部署（広報部、健康スポーツ部）の出席率が低い。

- 会議が報告中心で、活発な議論や意思決定が行われていない。
- **理事の当事者意識の希薄化:**
  - 理事が「自分たちの意見で組織が動く」という実感を持たず、受け身の姿勢。
  - 理事会が単なる承認機関や作業の手伝い要員と捉えられている可能性。
- **組織構造・運営プロセスの課題:**
  - 理事の構成に偏りがある可能性。
  - 意欲的に活動している非公式グループ（ホームページ制作委員会など）の位置づけが不明確で、支援体制がない。
  - 会員からの意見や提案を活動に繋げる仕組みが弱い。

## 会員減少への対策

### 1. 情報発信の強化と会員との接点増加

- **会報のデジタル化推進:**
  - 写真、動画、リンクなどを追加し、「デジタル版の方が楽しい」と感じられるよう工夫。
  - 紙版と並行提供し、デジタル版への移行を促進。
- **ホームページやSNSの活用:**
  - 主要な情報発信ツールとし、発信頻度を高め、会員との日常的な接点を増加。
- **双方向コミュニケーションの促進:**
  - 会員からの活動報告などの投稿を奨励し、会員参加型の情報共有プラットフォームを目指す。
- **メールマガジン（メルマガ）の導入:**
  - 会報PDF版の共有やイベント案内などを配信計画。
- **デジタルツールによる気軽なコミュニケーション:**
  - LINEやChatなどのツール活用により、会員同士の心理的な距離を縮め、日常的な情報交換を活性化（例：「お誕生日お祝いグループ」）。
- **情報共有プラットフォームの構築:**
  - 会員専用ポータルサイト（Googleサイトなど）を開設し、スケジュールや活動報告などを集約。
  - 会員間の情報共有と連帯感を深化（例：イベント後の写真アルバム公開）。

### 2. 活動の魅力向上と参加機会の多様化

- **新たな活動分野の開拓:**
  - E-Sports同好会・デジタル写真/動画クラブ・デジタルアートクラブ・オンラインカフェ・スマホ散策会など、会員の新たな興味関心に応える同好会やプロジェクトの設立を奨励・支援。
- **活動の「見える化」と魅力発信:**
  - ホームページ等で活動の様子（準備段階、楽しさ、参加者の笑顔、交流風景など）を具体的に伝え、「楽しさ」や得られる「価値」を積極的にアピール。
  - 写真や短い動画を活用。
- **多様な参加機会の創出:**
  - クラス単位だけでなく、趣味・関心・世代別など小グループでの交流イベント

や活動を企画・支援。

- ハイブリッド形式（対面＋オンライン）の会議や、短時間参加プログラムなど柔軟な参加形式を導入検討。

- **会員主体の企画運営:**

- 会員からの企画提案を理事会がサポートする制度や、イベント企画・実行委員を広く公募する仕組みを提案・実施。

- **デジタルツールによる会員間のつながり強化:**

- 物理的な距離を超えたつながりを実現し、孤立しがちな会員をコミュニティに結びつける。
- 会員名簿のデジタル化により、誕生日メッセージ送信や地域別声かけが可能になり、パーソナルなつながり深化や近隣での新たな交流グループ形成を後押し。

### 3. デジタルリテラシーの向上支援

- **学習機会の提供:**

- 「ゆっくりデジタル倶楽部」を立ち上げ、基本操作から応用まで学べる機会を提供。

- **成功体験を通じた自信向上:**

- 「できなかったことができるようになった」という成功体験を通じて、会員の自信と活動への参加意欲を向上。

- **サポート体制の強化:**

- 操作が苦手な会員への個別サポート。
- 理事会での「ホームページの見方・使い方講座」実施。
- デジタル担当者制度の設置、組織全体でデジタル活用を支援。
- サポート役の中級者会員が初心者へ教える「教え合いの文化」の醸成。

### 4. 組織運営の効率化と開かれた体制

- **データに基づいたアプローチ:**

- 会員名簿のデジタル化により、会員情報や活動参加履歴を効率的に管理・分析。
- 「見える化」されたデータに基づき、活動に参加していない会員への個別アプローチなど戦略的な働きかけを実施し、活動復帰を促進。

- **参加しやすい環境整備:**

- イベント管理ツールを導入し、簡単な申し込みシステムを構築。運営効率化と会員の参加ハードル低減。

- **開かれた組織運営:**

- 理事会の（人員）構成バランス見直し。
- 会員からの意見・提案を吸い上げ、活動に反映させるための情報集約・共有プロセスの確立を提案。

- **理事会の改革:**

- 理事会を「共創・方向付け」の場へ転換（報告事項は事前配布、会議時間は議論やアイデア出しに集中）。
- ファシリテーター導入、発言しやすい雰囲気作り、ブレインストーミング、オ

ンラインツール活用による参加型会議を導入。

- 理事会での議論が活動や成果に繋がった事例共有を通じ、当事者意識を向上。

- **非公式グループの公式化:**

- ホームページ委員会やデジタル担当者会などを、必要に応じて正式な委員会や部会として位置づけ、活動目標や支援体制を明確化。

- **役割の明確化:**

- 理事や役員の役割を明確にし、期待値を調整することでミスマッチを防止。

- **データ管理の効率化:**

- 大規模データ送信ツールやクラウドストレージ（Google Driveなど）の検討・導入。
- データの集約、管理者権限の設定。USBメモリによるデータやり取りは制限。

- **会議方法の改革:**

- 部長会や理事会にハイブリッド形式（対面+Online）を導入。
- 資料は基本的にデジタルデータで提供しペーパーレス化を推進。

## 5. その他の活性化策

- **イベント運営の工夫:**

- 事前準備：早期告知、参加者アンケート。
- 当日企画：テーマ設定、多様なイベント、サプライズ企画。
- 事後フォロー：アンケート、写真共有。

- **新たな層へのアプローチ:**

- 若手世代や地域との連携。

- **参加しやすい環境整備:**

- 参加しやすい料金設定。
- 安全面への配慮。

これらの多角的な対策を通じて、単にデジタルツールを導入するだけでなく、会員一人ひとりが主体的に関わり、新しいつながりを育み、同窓会活動の価値を再認識できるような、活気あるコミュニティの再生を目指しています。